



低平地研究会 活動報告会

日時：2023年5月26日(金) 16:30~17:30
場所：佐賀大学工学部3号館1F大セミナー室
(対面とZOOMオンラインのハイブリッド開催)



§ プログラム §

1. 会長挨拶
2. 運営委員長報告
3. 専門、特別部会報告
 - ①基盤整備専門部会
 - ②都市空間専門部会
 - ③環境専門部会
 - ④地域創生専門部会
 - ⑤歴史・文化専門部会
 - ⑥低平地防災特別部会

2022年度低平地研究会活動実績

月次	日 時		内 容	備 考
4月	2022年04月27日 (水)	09:30~10:30	第1回幹事会	第1回低平地研究会運営委員会の議案について
5月	2022年05月27日 (金)	10:30~12:00 ※ハイブリッド実施	第1回運営委員会	(1) 2021年度活動報告について (2) 2021年度決算について (3) 2022年度活動計画(案)について (4) 2022年度予算(案)について (5) 役員交代(案)について
		15:00~15:45 ※ハイブリッド実施	活動報告会 【活動報告】	2021年度各部会活動報告 ・運営委員長報告 ・環境部会報告 ・基盤整備部会報告 ・地域創生部会報告 ・都市空間部会報告 ・歴史・文化部会報告 ・低平地防災特別部会
		16:00~17:30 ※ハイブリッド実施	活動報告会 【特別講演】	『国土のリ・デザイン』 わたしたちはどのような国土をつくりあげ、どう使ってきたのか 講師：元佐賀大学教授 中岡 義介 氏
		※中止	会長懇談会	・特別講演会講師を囲んで
	—	—	成果普及	(部会活動冊子配布・特別会員、個人会員会費請求書発送準備) (会員名簿整理)
6月	2022年06月15日 (水) 2022年06月16日 (木)	10:00~16:00	成果普及	SAGA建設技術フェア2022(後援) (ガーデンテラス佐賀 ホテル&マリトピア)
7月	2022年07月13日 (水)	11:00~12:00 ※オンライン実施	部会連絡調整会議 (第一回)	2022年度部会活動予定全般 「低平地研究」編集方針
	2022年07月15日 (金)	—	ニューズレター発行	No.104
	—	—	機関誌発行	「低平地研究No.31」
	2022年07月15日 (金) 2022年07月28日 (木)	9:00~12:00 9:00~11:45	①部会活動 (都市空間)	初心者のためのGIS講習会 場 所：佐賀大学理工学部3号館会議室
10月	2022年10月20日 (木)	14:40~18:10	②部会活動 (基盤整備)	有明海沿岸道路 (大野島IC~諸富IC) 完成前現場見学
	2022年10月26日 (水)	—	ニューズレター発行	No.105
11月	2022年11月06日 (日)	10:30~18:30	③部会活動 (基盤整備)	嘉瀬川ダム竣工10周年記念感謝祭の共催 場 所：しゃくなげ広場(嘉瀬川ダム管理支所前) 主 催：嘉瀬川ダム竣工10周年記念実行委員会 (一社)古湯・熊野川温泉刊行コンベンション連盟
	2022年11月16日 (水)	10:30~11:30 ※対面+オンライン実施	部会連絡調整会議 (第二回) (佐賀大学)	各部会活動報告 発足30周年記念事業企画について 「低平地研究No.32」論文テーマ・寄稿について ほかに
11月 ~ 12月	2022年11月28日 (月) ~12月08日 (火)	—	④部会活動 (環境)	低平地に関するASIAN 協働セミナープログラムの共催 (ASIAN Collaborative Seminar Program on Lowland Technology 2022) 場 所：オンライン Facebook 等 参加大学：佐賀大学理工学部 ハサスディン大学 (インドネシア) ラガン・マカワット大学 (インドネシア) カントー大学 (ベトナム)

月次	日 時		内 容	備 考
1月	2023年01月14日(土)	14:00~16:00	⑤部会活動(地域創生)	講演会『三藩の歴史と高良玉垂について』 場所:三藩総合福祉センターゆうゆう (久留米市水沼の里2000年記念の森) 講師:大矢野 栄次氏(久留米大学名誉教授)
2月	2023年02月24日(金)	10:30~11:20 ※対面+オンライン実施	部会連絡調整会議(第三回) (佐賀大学)	各部会活動報告、来年度計画、来年度の30周年に向けて 低平地研究No.32 進捗状況など
	2023年02月27日(月)	13:30~18:00	⑥部会活動(都市空間)	第23回コミュニティデザインカフェ「幸せを共有する営みとしての建築/環境としての建築と都市」共催 日時:2023年2月27日(月)13:30~18:00 場 所:佐賀大学理工学部4号館デザインスタジオ 主 催:佐賀大学理工学部都市工学部門建築環境デザインコース+佐賀大学理工学部コミュニティデザイン研究会 共 催:(一社)日本建築学会九州支部佐賀支所 低平地研究会都市空間部会 講 師:末廣 香織氏(九州大学教授) 金子 尚志氏(滋賀県立大学准教授)
	2023年02月28日(火)	14:00~16:10	⑦部会活動(低平地防災)	『沿岸域の環境と防災に関する講演会』主催 場所:佐賀大学理工学6号館1F都市大講義室 共 催:佐賀大学理工学部都市工学部門 第一部:『津波の発生機構と増幅および環境研究』 講 師:中山 恵介氏(神戸大学教授) 第二部:『沿岸域の波動および物質輸送解析モデルの開発』 講 師:新谷 哲也氏(東京都立大学准教授)
3月	2023年03月13日(月)	—	ニューズレター発行	No.106
	2023年03月27日(月)	14:00~15:30 ※オンライン実施	⑧部会活動(環境)	オンライン講演会 主催 世界の低平地シリーズ 『インドネシアの低平地:潮汐利用灌漑ネットワークに関する水問題(Lowland in Indonesia: Water Issues on Tidal Irrigation Network)』 講 師:Dr. Maya Amalia マヤ アマリア氏 (Assistant Professor, Lampung Mangkurat University, Indonesia ランブング・マンクラット大学、インドネシア、助教授)※通訳あり 場 所:ZOOM オンライン

運営委員会・活動報告会

2022年5月27日(金) 13:30～14:20に2022年度の運営委員会が開催されました。定例の活動報告、2021年度の決算と2022年度の予算案に関する議題の審議が行われ、承認されました。今年度は新しい役員案が提示され、承認されたことで、会長、運営委員長、特別顧問が交代となりました。新会長に王丸義明氏(佐賀県建設技術支援機構理事長)、新運営委員長に大串浩一郎教授(佐賀大学理工学部)がそれぞれ就任されました。



王丸会長

運営委員会の後、同日の15:00

～15:45において、活動報告会が開催されました。昨年度はオンライン形式でしたが、本年度は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたので、対面とオンライン形式を併用したハイブリッド形式にて開催されました。

冒頭の王丸会長の挨拶を皮切りとして、運営委員長からは運営委員会の報告、6つの専門部会(歴史・文化専門部会、地域創生専門部会、環境専門部会、都市空間専門部会、基盤整備専門部会、低平地防災特別部会)の部会長から2021年度の諸活動が報告されました。

活動報告会後の16:00～17:30にて、ハイブリッド形式によって特別講演会が開催されました。本年度は講師に中岡義氏(元佐賀大学教授)に越えいただき、「『国土のリ・デザイン』わたしたちはどのような国土をつくりあげ、どう使ってきたのか」と題してのご講演でした。会場のみならずオンラインからも多くの方が聴講し、147名(そのうち対面70名)の参加数でした。

我が国の国土や低平地の成り立ちからどのように開発されたのかを紐解き、低平地の特徴やそれらを背景として形成された生活空間について解説されました。講演後には質問も多く寄せられ、活気のある講演会となりました。



特別講演講師：中岡義氏



会場の様子

基盤整備専門部会

■2022年度活動報告

(1) 有明海沿岸道路(大野島IC～諸富IC)完成前現場見学
日 時：2022年10月20日(木) 14:40～18:10

有明海沿岸道路工事現場と昇開橋の見学会に佐賀大学理工学部都市工学部門の学生とともに参加しました。有明海沿岸道路の現場見学は国土交通省九州地方整備局有明海沿岸道路工事事務所の主催です。訪問した工事現場は、11月12日(土)に開通を予定している諸富IC～大野島IC区間で、事業概要の説明を皮切りとして、有明早津江大橋、地盤改良工、橋梁下部工の現場を紹介していただきました。

浅層や深層混合処理工法といった軟弱地盤対策のほか、橋台下に適用されている杭打ち工法が説明されました。橋梁部は世界遺産の三重津海軍所跡が隣接していることもあり景観にも十分に配慮しつつ、耐風安定性と圧密沈下へのリスクが低い鋼アーク橋が採用されたとのことでした。

その後には、新旧橋梁の比較のために、昇開橋も訪れました。見学会を通して、参加された会員から積極的な質問や解説もあり、参加した学生にとっては大変ありがたい機会となりました。



(2) 嘉瀬川ダム竣工10周年記念感謝祭の共催

日 時：2022年11月6日(日) 10:30～18:30

場 所：しゃくなげ広場(嘉瀬川ダム管理支所前)

主 催：嘉瀬川ダム竣工10周年記念実行委員会

(一社)古湯・熊野川温泉刊行コンベンション連盟



嘉瀬川ダムが竣工されて10年が経過し、嘉瀬川ダム竣工10周年記念実行委員会主催による10周年記念感謝祭が開催されました。嘉瀬川ダムは、嘉瀬川の治水と佐賀市やその周辺地域への利水と水力発電を目的とした特定多目的ダムで、堤高97m、堤頂長480mにおよびます。

当日は天候にも恵まれ、午前中は国土交通省九州地方整備局の担当者によるダム見学会、午後は土木応援チームデミーとマツさんらによる土木クイズやトークショーなどがあり、嘉瀬川ダムの概要や竣工後のダムの歩みなどを知る良い機会となりました。

■2022年度活動計画

- ・「これからの低平地と基盤整備」に関連するテーマの講演
- ・低平地の地盤工学的性質に関連する研究

都市空間専門部会

■2022年度活動報告

(1) 初心者のためのGIS講習会の主催

日時：2022年7月15日（金）9:00～12:00

2022年7月28日（木）9:00～11:45

場所：佐賀大学理工学部3号館会議室

低平地研究会都市空間専門部会・部会長の猪八重氏を講師に、地理情報システム（GIS）の講習会を開催しました。参加者は2日間のべ22名で、前半はGISの基本的な仕組みや地理情報を扱う上で欠かせない座標系等についての話があり、後半は実際に参加者がGISを体験しながら、GISの基本操作や分析手法について学びました。参加者からは、特にデータの入手方法やデータ解析の手法についての質問があり、今後GISをそれぞれの研究や業務で活用していくためのよい機会となったものと思われます。



(2) 第23回コミュニティデザインカフェ「幸せを共有する営みとしての建築/環境としての建築と都市」の共催

日時：2023年2月27日（月）13:30～18:00

場所：佐賀大学理工学部4号館デザインスタジオ

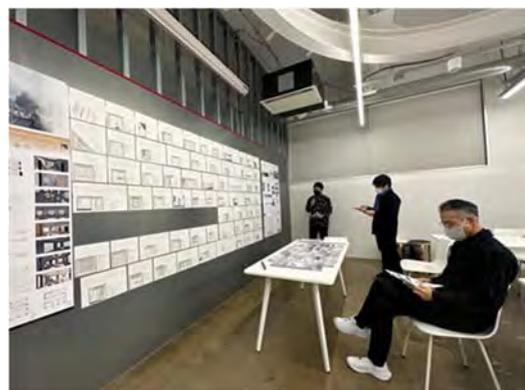
第23回コミュニティデザインカフェ
幸せを共有する営みとしての建築
環境としての建築と都市
 13:30-18:00
 末廣香織氏 / 九州大学大学院人間環境学研究院教授
 金子尚志氏 / 滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科専任教授

2023年2月27日（月）13:30-18:00
 佐賀大学理工学部4号館デザインスタジオ

主催：佐賀大学理工学部都市工学部門
 建築環境デザインコース+佐賀大学理工学部コミュニティデザイン研究会
 共催：(一社)日本建築学会九州支部佐賀支所
 ・低平地研究会都市空間部会

末廣香織氏（九州大学教授）・金子尚志氏（滋賀県立大学准教授）をお招きし、特別講演会及び3年生建築設計課題「new normal UNIVERSITY LIBRARY」に意匠+環境の両側面から取り組んだ作品・卒業制作・修士制作の優秀作品を一堂に会したゲスト講演会・パーティカルレビューを開催しました。

3年生4グループ・卒業制作3名・修士制作2名の学生発表を行い、現役学生30名のほか学外者など計45名の参加がありました。他学年の作品を同時に講評するパーティカルレビューは2回目の試みでしたが、学生にとっても大変有意義な機会となりました。





■ 2023年度活動計画

- ・環アジア国際セミナーの開催（共催）
- ・コミュニティデザインカフェの開催（共催）
- ・低平地の都市空間に関する研究成果公開、研究会や講習会等の開催

環境専門部会

■ 2022年度活動報告

(1) 低平地技術に関する ASIAN 協働セミナープログラムの共催

日時：2022年11月28日（月）～12月6日（火）

実施形態：Facebook、YouTube（動画配信）

参加大学：佐賀大学理工学部

ハサヌディン大学（インドネシア）

ランブング・マンクラット大学（インドネシア）

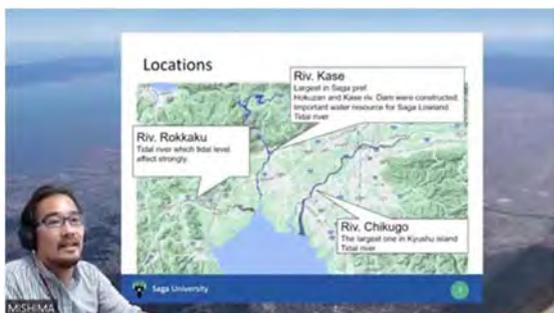
カントー大学（ベトナム）

主催：佐賀大学理工学部

共催：低平地研究会、国際低平地研究協会

例年の報告となりますが、令和4年度も低平地に立地するアジアの大学と連携して、同プログラムをオンラインにて開催いたしました。地盤、水環境、都市に関する低平地技術を共に学び、低平地への理解を深めようとするものです。

開催方法は例年通り、Facebook、Zoom、YouTube を活用して、講義、動画、ポスターセッションなどのコンテンツを提供しました。表記の大学から39名の学生と8名の教員が参加しましたが、特別講義にはそれぞれの大学の学生や研究者の追加参加もあり、それらを含めると74名の参加者となりました。講義やポスターセッションでは、活発な質疑が行われており、コロナ禍による対面活動の制限に関わらず、本プログラムの形式は情報交換の場として有効な機会として活用できました。



Zoom 講義中の様子

次年度は参加大学と連携分野を拡大して、より魅力的なプログラムを提示できるようにプログラムを改善する予定です。



会場の Facebook ページ

(2) 「世界の低平地」シリーズ第6回講演会

『インドネシアの低平地：潮汐利用灌漑ネットワークに関する水問題 (Lowland in Indonesia : Water Issues on Tidal Irrigation Network)』

日時：2023年3月27日（月）14：00～15：30

実施形態：オンライン

講師：Dr. Maya Amalia

マヤ アマリア 氏

(Lambung Mangkurat University, Indonesia
ランブング・マンクラット大学、インドネシア 助教授)

共催：佐賀大学理工学部都市工学部門

参加者：43名



「世界の低平地」シリーズの講演会が4年ぶりに開催されました。2023年3月27日（月）にインドネシアのランブング・マンクラット大学 Dr. Maya Amalia (マヤ アマリア) をお招きし、「インドネシアの低平地：潮汐利用灌漑ネットワークに関する水問題 (Lowland in Indonesia : Water Issues on Tidal Irrigation Network) 」の題目でご講演いただきました。

沼地の開発と管理の歴史により、農地を目的として1970年代から政府による同国の沼地及び低平地の開発が開始され、ジャワ島から多くの人々は農地が広く存在するスマトラ島及びカリマンタン島に移住しました。沼地の開発の最初のターニングポイントとして1997年に開始された「Central Kalimantan Mega Rice Project」により100万haの沼地は水田へ開発され、大規模の食料プロジェクトが進められました。

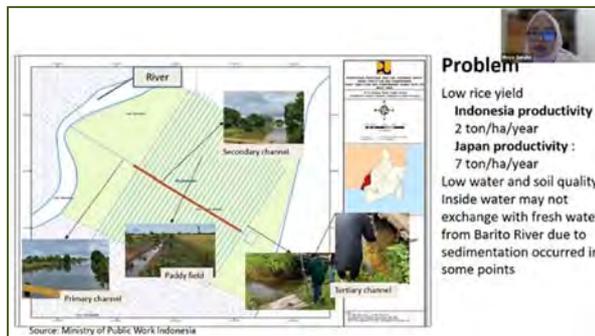
沼地の開発の第2ターニングポイントは2007年にバリ島で開催された「気候変動枠組条約第13回締約国会議 (COP-13 Climate Change Conference) 」をきっかけに沼地の開発に関する政策が提案されました。その後、森林減少に由来する温室効果ガス排出の削減目標等が設定されました。

インドネシアの沼地の面積は3339万haであり、6割の沼地は潮汐の影響を受けています。水田の面積は開発された全体の沼地の7割を占めており、インドネシアにおいて多くの低平地は農地、特に水田として利用されています。そのため、灌漑用水を提供するための設備や水管理システムの整備が進められています。干満

差の影響を強く受けている農地において、高い灌漑用水の需要のみならず水質・土質の問題や社会経済的問題等、様々な問題が存在しています。その問題に対応するツールとしてリアルタイム観測システム、データ分析、堰の遠隔操作が可能なスマート水管理システム (Smart Water Management : SWM) が紹介されました。

最後に、高濃度の硫酸塩の水田及び低 pH の水質に伴う低い米の生産量を改善するためにマヤ アマリア氏のチームが行っている南カリマンタンにおける潮汐利用灌漑ネットワークに関する研究をご紹介します。

低平地研究会の会員及び佐賀大学の関係者をはじめ、ランブング・マンクラット大学の32名の学生、計43名が参加されました。オンライン形式の開催により国内外から多くの参加者にご参加いただきました。また、2024年3月末まで低平地研究会のYouTubeチャンネルにて講演会の動画を視聴できます。



オンライン講演会の様子

■2023年度活動計画

次年度も引き続き、国内外の低平地における環境問題に関する講演会の他、佐賀低平地ならではの環境技術の情報を国内外への発信する予定です。ご参加をお待ちしております。

- (1) 低平地技術に関する ASIAN 協働セミナープログラム 2023 の共催
- (2) 世界や国内の低平地の環境問題をテーマとした講演会
- (3) 環境計測ツール導入に関するコンテンツ公開

地域創生専門部会

■2022年度活動報告

(1) 講演会

令和5年1月14日(土)、久留米市水沼の里2000年記念の森、「三潴総合福祉センターゆうゆう」において、「三潴の歴史と高良玉垂について」と題して、14時~16時の間、大矢野栄次氏(久留米大学名誉教授)による講演を行いました。

講演内容は以下のとおりです。「三潴」という地名に歴史的な価値を見出す作業として、弓頭神社が水沼別(みぬまわけ=水別君=景行天皇の子、鳥帽子塚古墳が筑後一の前方土円墳である可能性、「三潴郡高三潴ノ地に廟あり(略)玉垂命の榮域とし石を刻て墓標とす(略)鳥居に高良廟とあり「高良御廟塚」がある、等について議論しました。また、大善寺鬼夜と筑後市内の熊野神社の鬼会、国東半島の鬼会との関係について説明がありました。

(2)見学会「佐賀の歴史巡り」 コロナの影響により中止。

(3) 冊子刊行

・「西九州新幹線議論の経過と今後—JR九州と九州の地方創生」(令和5年4月1日)を発行しました。

西九州新幹線の建設についてのこれまでの議論の経過と今後の在り方について考察しました。



大分新幹線(大分-日田-久留米)



出所:マビオンより作成
 (1)長崎本線(鳥栖-鹿島間の存続) (2)久大線の廃止
 (3)大分-日田-佐賀間、大分-宇佐間の活性化

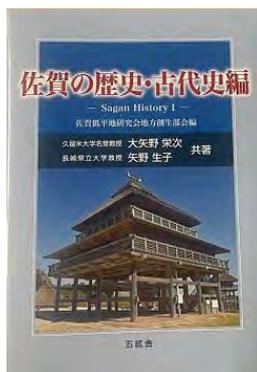
『佐賀の歴史—古代編』（令和4年10月）を発行しました。

吉野ヶ里は、「平原広沢（広い平野と湿地）」を得て、王となり戻らなかったとの記述がある徐福が作った国である可能性について考察しています。また、『日本書紀』を前提として、神武天皇や綏靖天皇と肥前の国との関係について説明しています。たとえば、嘉瀬川ダムの周辺域における『乳母神社と産宮神社—佐賀市富士町・唐津市七山の古代史考察』（令和3年10月）…佐賀市富士町の嘉瀬川ダムの上流域下無津呂に神武天皇の乳母を祀る神社があり、嘉瀬川ダムの横には、山幸彦の母親木花咲耶姫を祀る子安神社があります。そして、糸島には、第二代綏靖天皇の乳母を祀る産宮神社があります。佐賀市富士町と唐津市七山一帯は山幸彦から神武天皇・綏靖天皇の物語が語り継がれていることを説明しました。

次に、神崎市日隈山東部地域に位置する前方後円墳が天武天皇の御陵であり、その南側に持統天皇の御陵がある可能性について論じています。

■2023年度活動計画

- (1) 講演会
- (2) 見学会 年に二回程度開催する予定。
 - ・「佐賀の歴史巡り」、嘉瀬川周辺域の古代史巡り
 - ・「肥前の陶磁器文化について」
- (3) 『佐賀の歴史—中世史編』（令和5年10月）を発行。
- (4) その他の研究計画
 - ・有明海と背振山地、及び筑後川流域の歴史・文化・環境についての調査を行い、地域創生と地域の国際化を両立させることを模索するための研究を続ける。
 - ・有明海沿岸域の経済構造の実態と佐賀空港周辺域の将来構想についての研究を続行する。
 - ・有明海沿岸部等の低平地における社会基盤整備の現状や課題について調査・研究を行う。
 - ・有明海沿岸域の経済構造の実態と物流システムを考慮した将来構想の研究について続行する。
 - ・この地域の文化・社会・経済・政治を理解して、地域創生とこの地域の国際化の両立を模索するための研究を続ける。



歴史・文化専門部会

■2022年度活動報告

(1) 史料翻刻及び解説

『諫早泉水海をめぐる争論—佐嘉郡からの入漁』

歴史専門部会では、江戸時代に諫早泉水海（諫早湾）に入漁した佐賀藩佐嘉郡漁師と同藩諫早領漁師の漁業争論に関する史料を翻刻・刊行しました。諫早市立図書館所蔵諫早家文書の「日記」のうち、安政期の争論該当部分を取り上げました。佐賀県立図書館で令和2、3年度に開催された古文書講座実践編一コースで、テキストとして使用しました。受講された皆様との翻刻の成果になります。

江戸時代の諫早地域は、佐賀藩の重臣（親類同格・連判家老）諫早氏の私領です。諫早氏は佐賀藩主鍋島氏の先当主にあたる龍造寺氏の流れをくみます。元禄11年（1698）以降、佐賀本藩領の佐嘉郡漁師が泉水海に進出したため争論となりました。潟の干拓がすすむなど環境の変化を背景にした佐嘉郡漁師の進出に対し、泉水海の排他性を主張する諫早領漁師の主張の軸はどこにあるのか、考察の一助となる史料集です。



■2023年度活動計画

機関誌「低平地研究」最新号に、江戸・明治期佐賀の風水害に関する特集を掲載する予定です。また、江戸時代の佐賀における風水害関係資料をまとめた資料集の刊行を準備しています。

低平地防災特別部会

■ 2022年度活動報告

沿岸域の環境と防災に関する講演会

日時：2023年2月28日（火）14:00～16:10（二部構成）

場所：佐賀大学理工学部6号館 都市大講義室

主催：低平地研究会 低平地防災特別部会

共催：佐賀大学理工学部都市工学部門

第一部の講演タイトル：

『津波の発生機構と増幅および環境研究』

講師：神戸大学 教授 中山恵介氏

第二部の講演タイトル：

『沿岸域の波動および物質輸送解析モデルの開発』

講師：東京都立大学 准教授 新谷哲也氏

第一部では中山氏より、津波の発生機構の概要と河川を遡上する津波の増幅機構に関する最近の研究成果についてご説明頂きました。また、後半は最新の環境研究について話題提供頂き、流体力学に基づく天然記念物の北海道阿寒湖のマリモの保全に向けた研究、地球温暖化に対する最新の研究課題ともいえるアマモやカキに関するブルーカーボンの研究などについてご教示頂きました。

第二部では新谷氏より、沿岸域の防災・環境研究や環境アセスメントなどの実務において不可欠な流動・波動および物質輸送解析モデルの最近の研究動向についてご説明頂きました。また、開発されたモデルを用いて津波の伝搬、有明海に流入する筑後川河口域の塩水遡上などの高精度な数値解析結果についてご紹介頂きました。



■ 2023年度活動計画

- ・低平地の災害リスクと防災減災に関する研究
- ・災害免疫力の評価方法に関する研究
- ・防災研究に関する成果発表や講演会の開催